

平成 29 年度 高知市立学校 学校評価書

学校名 高知市立 高知商業高等学校

大項目	自 己 評 価				学校関係者評価	
	中項目	小項目（評価指標・具体的な取り組み）	達成状況・改善方策	評価	評価	
1・ビジネスマナー教育の徹底	(1) 精勤・皆勤を増やす指導の徹底と継続	①遅刻現象を目指す指導の展開 ②啓発・顕彰活動の展開 ③精皆勤3年間60%以上	遅刻ゼロ日の取り組みで遅刻が減少した。同時期2年連続で500ずつ減り1/3になった	A	A	遅刻大幅減は高く評価できる
	(2) 授業における日常指導（授業規律スタンダード）の徹底と継続	①授業における分離礼の統一指導の徹底と継続 ②「ベル開始」指導の徹底と継続 ③授業者1分前着の徹底と継続 ④教室環境指導の徹底と継続	①評議員との協力により統一できている ②③実践できている ④毎朝、副主任によるチェックをしていく	A	A	アンケート結果から評価
	(3) 職員室・準備室での指導の徹底と継続	①挨拶指導の徹底と継続 ②服装指導の徹底と継続 ③言葉使い指導の徹底と継続	①～③きちんとできると総括されている。さらに徹底していく	A	B	生徒アンケート5、6から評価
	(4) 環境美化指導の徹底と継続	①1年次の床拭き指導の徹底と継続 ②清掃後の振り返り指導の継続と発展 ③副主任による教室の棚の整理指導の徹底と継続 ④定期的な席替えの実施 ⑤駐輪場の整理指導の徹底と継続	①継続指導の必要性を確認 ②掃除はしているが不十分な個所が多い。掃除の精度を上げるための振り返り実施と充実が課題である ③副主任による毎朝の確認教職員アンケートの数値向上（そう思う29→41） ④実施できている ⑤整理のためのラインの追加により改善した	B	B	生徒アンケート8から評価
	(5) 交通マナー指導の徹底と継続	①日常指導の徹底 ②自転車安全運転指導の徹底と継続	①生徒に当事者意識を持たせるための指導を実施した ②自転車事故が無くならない	B	B	
	(6) 服装指導の徹底	①計画的・系統的指導の徹底 ②日常指導の徹底 ③「校内」から「校外」へ	①②定期的な生徒部主導による指導 ③校外での様子を検証する必要あり	B	B	
2・基礎学力向上指導の徹底	(1) 関心意欲態度・提出物・配布資料の管理の徹底	①規律・提出物と評価の一体化 ②配布資料管理能力の育成	①②提出物への生徒の意識が定着してきていて期限内に出せるようになった	A	B	生徒アンケート9から評価
	(2) 義務教育段階での学習内容の定着を図る指導	①各科目シラバスの計画的実施 ②小テスト・復習課題などの実施	①定期的なチェックが必要 ②小テスト、課題増の教科(英語、数学)	B	B	
	(3) 学習行動及び家庭学習を促す指導の徹底	①学習意欲を向上させる指導 ②学習行動及び家庭学習を促す指導支援策 ア.家庭学習のための早めの学習予定や計画の提示 イ.長期休業中の課題提示 ウ.3年生への卒業課題の提示 ③家庭学習しない10%以下	①授業内容、評価とリンクさせる取組が増加した ②課題を出す授業は確実に増加している。やってこなければついていけない、という認識を持たせる ③昨年度316名から205名に減ったことは成果である。特に1年生は7.3%	A	B	指導はしているが、家庭での変容は不十分
	(4) 授業・定期考査のレベルを上げる指導	①テスト改革・施行判断表現力を養う	①98%の教員がレベル向上に取り組む ・実力診断テスト9月B3以上218名で、初めて4月を超えた(英語)	A	A	数値で評価
	(5) 全員が全商検定1級を取得する指導	①3種目1級取得100名以上 ②卒業時1級取得100%	①49名が達成。3学期も挑戦2年生の成果(ライセンス、理科) ②3年生取得者172名、63%	B	B	数値で評価

	(6) 少人数指導の有効な指導	①課題研究の質的な転換と向上を目指す指導 ②少人数・TT指導の効果的な指導 ③学校設定科目の質的向上を目指す指導	①質的転換に向けて取り組まれている ②研究中だが課題あり ③科目による温度差が大きい	B		B	
	(7) 朝読時間の効果的な実施と計画	①原則的指導と例外的指導を明確にした指導	①よくできているので継続する	A		A	
3・伸ばす指導の徹底	(1) 高いレベルの進路を実現する指導	①国公立大学公務員合格者を増やす指導 ②私立大学・就職対策指導 ③動機づけ（講演会・オリエンテーション等）の充実 ④役割やスケジュールを明確にした指導	①受験者数が減少し昨年度から数を減らしたが合格率、合格先では成果あり ②難関大への合格者増 ③④学校を挙げての支援体制が前進した 高い目標を目指す文化ができはじめた（特進）eポートフォリオ活用が課題	A		A	成果が出ている
	(2) 授業実践スタンダードの徹底と継続	①川下から授業を組み立てるア、到達目標の明示 イ、プロセス評価基準の明示 ②振り返り時間の確保（プロセス評価のまとめ） ③課題の提示（やってくる生徒を増やす視点）	①明示された取組はほぼ2/3 ②振り返りが十分でない。時間確保が最優先課題である（多数） ③前進が見られる。一層進める	B		B	
	(3) 高いレベルの資格検定を目指す指導	①日商簿記2級20名以上 ②基本情報・ITパスポート3名以上 ③実用英検2級30名以上 ④漢検、時事能力検定等	①4名合格 ②6名合格。過去最高 ③合計10名 ④受験者数大幅増	B		B	数値で評価
	(4) 行事・講演会等の質的向上をめざす指導	①改善点を明確にした要項の作成と運営 ②マゼンタの視点を持った生徒の主体的な参加による運営	①年々改善されている。生徒の取組姿勢、内容が向上している ②マネジメントシートが活用された	A		A	
	(5) 全国的レベルの部活動、生徒会活動の実現	①全国大会出場16種目以上 ②部活動加入100%実現	①12種目で全国大会出場 ②1年生98%	B		B	もう少し頑張してほしい
	(6) 文化活動を活性化させる指導の充実	①文化部・授業での積極的な各種大会の参加やコンクールへの応募 ②文化活動・各種大会応募実績40種目以上	①②積極的な応募が増えてきた。生徒の挑戦を推奨してきた成果（表彰・入選等）が多く出た。応募数は59を達成	A		A	よく頑張っている
	(7) 伸びる力・努力に対する適切な評価	①目標に準拠した評価の実施 ②観点別評価の実施 ③全教科・科目で実施 ④指導と評価の一体化	①～④教科および各教員において、シラバスとの整合性を含めて、この視点での評価を一層推進していく	B		B	アンケート結果から
4・市商マネジメント力の育成（言語活動を通じたマネジメント力+言わなくてもできる力）	(1) コミュニケーション力を育成する指導	①社会と協働する力（学科・コースの独自の活動外部と繋がる活動の展開、高知と繋がり貢献する活動の展開） ②チームで働く力・グループワーク力 ③討論する力	①新たな取組ができ、生徒の力になるとともに進路にも結び付けられた。インターシップへの取組強化が求められる ②③相乗効果が認められるが全体としては弱い	B		A	地元企業とのコラボなど、非常によく頑張った
	(2) 課題発見・課題解決力を育成する指導	①自主的に学ぶ力 ア. 見通しを立てて学習ができる力（授業・家庭予習） イ. 学習を振り返る力 ウ. 計画立案実行力（スケジュール手帳活用力・自らの力で検定合格できる力・タイムマネジメント力） ②調べる力 ③ノートを作る力 ④講義理解力（話を聞く力）	①事前課題と学習内容を関連させることによる学習意欲の向上が多く見られた。振り返りの時間確保が不十分である ②教員への配布とともにタブレットの活用が進んでいる ③添削指導を細かく実施している。ノート事例を明示する（国語、社マネ） 持久走のタイムがアップした。調べ学習やワークシートの成	B		B	

		⑤論理的思考力・分析力	果か（保体科） ④メモを取らせるための工夫など ⑤思考の幅を広げるカリマネの視点での教材研究が求められる			
	(3) プレゼンテーション力を育成する指導	①発表力・説明力 ②文書力(論述・論理的表現力) ③レポート作成力 ④記録・要約できる力	①ワールドカフェの定着が見られる ②文章表現が幼いなどの課題あり ③他教科への協力依頼 ④ノートの共有をさせるなど	B	A	市商祭、日曜日などでよく頑張った
	(4) ICT・英語活用力を育成する指導	①タブレットの授業での活用 ②ICT 学習教材の活用指導の実施 ③英語授業以外での英語の活用 ④集会におけるプレゼン指導	①②設備の増設、意欲的活用が増加 ③向上はみられる。さらに活用を図る ④集会、行事での生徒プレゼン力の向上が見られる	B	B	
	(5) 察する（言われなくてもできる）力を育成する指導	①指示・説明を少なくし、考える機会・時間を確保 ②自ら気づき行動させるはたらきかけ	①教えない指導・授業が増えてきている生徒に任せる機会増。また実施に向けて計画されている ②黙って待つ時間を設ける、授業内での気づきを評価するなど	B	B	
5・各部署組織運営計画	(1) 各部署の組織運営・組織活動の活性化	①計画的かつ主体的な組織運営・組織活動の実施 ②明確な役割分担と責任体制の確立 ③報連相の徹底 ④情報の共有化	①計画的な運営ができている ②各部署での確立が進んでいる ③良好であるが、常に意識すること ④部署だけでなく学校全体で進めていく	A	A	
6・重点学校組織運営計画	(1) 情報管理(組織文化)	①学年・学科コース・教科会報告の収集と共有化・・・未提出部署への連絡を実施する ②事務作業の適正化と期日期限の厳守・・・掲示板 100%既読を目指し、週末に点検する ③生徒情報を連続性・系統性のあるものにし共有する・・・データ化を行い、横・縦に共有する ④いじめ早期発見のための諸会議における情報収集の徹底・・・全会議で議題にする ⑤職員のマネジメント力の向上・・・早めの日程・分担等を提示する ⑥生徒指導・学級経営・検定対策で効果のあった指導方法を蓄積し、共有化を図り指導力を向上させる（学期に一度記録化）	①報告・共有が確立 ②ほぼ 100%既読が達成されている ③学年会、生徒部保健相談での共有は見られるが、対応に遅れが見られるケースがあった ④この観点では実施できているが、いじめ対応が後手に回ったケースがあった。反省を生かして徹底していく ⑤早めの提示を心がけている ⑥1 学期は共有事例が2名の担当者からしか挙げられなかったが、2 学期から共通認識を強めて授業 PDCA とリンクさせて実施(現時点で4名が事例アップ)	B	B	
	(2) 人材開発(組織過程)	①個に応じた指導の充実と研究授業の発展・・・研究授業において全員が能動学習に取り組み、日常的な指導につなげ授業の相乗効果を図る。川下から授業を作る研究を深める。 ②運営委員会で新学習指導要領や基礎学力テスト・大学入学希望者学力評価テスト対策の研	①授業実践スタンダードの順守において、研究授業では前進が見られたが、日常の授業での定着を進め継続して授業改善に取り組む(アンケート評価 3.93) ②教育課程検討委員会を立ち上げて鋭意開催中であるが、教職員の情報収集とともに管理	A	A	

		究・検討を開始する ③大学等との連携教育の強化・・・県内3大学との連携を一層強化する ④進学指導力の向上・・・国公立講座をより充実させ、他の生徒にも拡充する ⑤期限付・時間講師等の指導力向上・・・研修を実施し授業改善情報等の発信を行う ⑥初任研～4年次研の充実・発展・担当教員を配置し教科会が研究授業へ参加する ⑦タブレット端末を活用した能動学習の研究を行い実践する ⑧生徒発表等において英語を活用するための指導方法を研究し、全体に広げる ⑨世代交代を意識した人材配置、実践の継承発展を図るためのOJTや交流を実施する	職からの情報提供が重要となる ③特進、社マネ、情マネの各科コースにおいて取組中である。本校の理解と評価にもつながっている（情マネ） ④学校全体での支援体制は前進している。講座のチーム体制にも改善がみられる。1・2年生からの打ち込みが重要なので3学期に実施する ⑤本年度は期限付講師研修対象者なし ⑥充実した年次研修が実施されている。校外からも高い評価を得た ⑦タブレットの活用は進んできている。教員機の活用も図る ⑧一層上げていく必要あり。教職員アンケート数値向上（肯定群） ⑨意識して行っている。一層の実現に向けての職場内の雰囲気づくりが必要			
	(3) 改善力のある組織体制	①指導方法や指導体制の工夫改善・・・定例教科会の効果的な実施と、少人数・T T指導のPDCAサイクルを確立する ②学習指導に関する検証サイクルの確立・・・授業PDCAサイクルへ導入し授業スタンダードを実践する。研究授業における事前事後検討会で校長室を活用する ③教育相談室を複数常駐とし、より相談室活動を充実させる ④朝読時間の年間計画を立て、より良い朝のスタートのための実践を行う ⑤会議は定刻に始める ⑥大胆かつ積極的な広報活動の展開・・・担当管理職を決め計画的な発信を行う ⑦ワークライフバランスを目指して「チーム市商」としての組織運営を推進する	①教科会は確実に実施されている。少人数指導、TTの効果は確認できているが検証体制をどうするかが課題である ②授業PDCAの自己評価によれば、実践スタンダードの実施に課題を残している。 ③複数配置により教育相談活動が大きく前進している。担当者による毎朝の確認も確実に行われている ④良好に実施中 ⑤会議の定刻開始が定着している ⑥精力的に実施中 ⑦チームとしてお互いを支えていく意識を高めていく必要がある。高知自立高等学校の認識の共有も重要	B	B	
7・安全・防災教育	(1) 交通安全指導の充実	①自転車安全指導の徹底 ②旭校区の諸団体との連携	①課題あり。緊急全校集会を実施した ②計画的に行えている	B	B	
	(2) 防災教育の充実	①系統的な年間計画の策定と実施 ②地域と連携した避難訓練の計画と実施	①生徒安全委員会の取組が進行中 ②地域住民による本校での初の避難訓練が行われた	B	B	
8・総合評価	(1) 特色ある学校として中学生に選ばれ、進学にも就職にも強い持続的発展可能な学校	①体験入学参加者および受験者の増加 ②進路決定100%実現 ③学校が同じ方向を向くためのPDCAサイクルの実現	①現時点での状況は例年並みに良好 ②成果が見られている（指標参照） ③全教職員の意識的な取組が実現への鍵となる	A	A	

経営のまとめ（成果と課題）	学校関係者評価委員のまとめ
【成果】 1. 1 学期に引き続き授業規律スタンダードの定着が見られる。学校行事の関係から、3 年生でやや浮ついた時期があったとの総括が見られたが、授業 PDCA の自己評価は 4.22 であった。大きく前進したと評価された 1 学期が 4.28 であったので踏ん張っている。授業規律確立に向けて、常に生徒に求め続ける姿勢が重要である。 2. 学校の教育実践全般の成果が表れる生徒の進路において、難関大学への合格者増や就職における事務職への内定率の向上など成果が見られた。進学では、受験者に対する合格率の向上や滑り止め受験への指導が前進したとの分析がなされている。事務職就職率は県下の平均の 3.15 倍となっている。生徒の市商マネジメント力向上が表れた成果である。 3. 市商祭を中心とした学校行事において、生徒・教職員・PTA が一体となった取組ができ、内外ともに高く評価できる成果が出せた。高知市志議会においても、高知市の幹部や議員、中学校関係者からの高評価を得、本校に対する関心が高まった。 【課題】 1. 授業実践スタンダードに沿った授業展開がまだ不十分である。教員の自己評価は 1 学期の 3.64 から 3.70 に微増しているが、振り返りの時間が確保されなかったり、目標・プロセス評価が明示されない授業も多く見受けられるなど課題を残している。自身の授業が学校全体への相乗効果と波及効果を生み出すことに確信をもって授業改善への取組を継続していく必要がある。 2. 12 月の 2 回の研修で、今回の教育改革への対応の重要性は共有された。研修内容の確認と学習はもちろん、情報収集を含めた日々の研鑽が求められている。特に高知自立高等学校教職員という自覚は堅持するとともに、本校の実践は先進的であるという意識は払しょくしなければならない。 3. 生徒に「当事者意識を持たせる」指導を継続して行う必要がある。 4. 教員のタブレット研修を 1 学期に実施したが活用には個人差が大きい。年度末からの PC 環境の激変に対応できるようにしなければならない。自由参加による研修を企画実施する。 5. 部活動の活性化は本校の生命線である。総括の中の言には「自主的に取り組み、振り返る選手（生徒）を育てるしかない」とある。	教職員でなければ評価できない項目や内容が多く評価しづらい面がある。三者の学校評価アンケートの結果をベースとして評価した。

※ 評価は、S…大変優れている、A…優れている、B…概ね満足、C…要改善の 4 段階で記入する。